

春ですね～。
梅の花も満開！！



春風の中で、

馬とたわむれてみよう！

置き忘れて来た何かを、思い出すかもしれない……。

——もくじ——	
運営委員会より（ご意見募集&総会のお知らせ）	1 ページ
乗馬会レポート（1月14日）	3
第9回「馬と健康社会」研究会レポート（2）	4
馬ギャラリー	2, 5
「自然・馬・人の会」ってこんな会です	6
★総会について	別紙

土岐・運・来

運営委員会より（大切なお知らせです）

「ご意見募集」

「乗馬会の持ち方について」

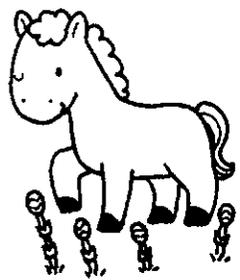
「自然・馬・人の会」は、「障害があってもなくても、お子さんからお年寄りまで、一緒に馬に乗ろう」と言う趣旨で乗馬会を始めました。ところが、この頃少し支障が出てきました。それは、たくさんの方が回を重ね、乗馬が上手になったために起こり始めたことでした。今まで引き馬で乗っていたのが、引き綱なしで乗れる人が増えてきたのです。そして実際に、何人かが一人で手綱を持って乗り始めました。

ところが、現在乗馬会をやっている場所は、地面が固く、周りの柵もありません。また、不特定多数の方が出入りしています。時には、人が犬と一緒にカラーコーンの中に入って来たりもします。つまり、乗馬をやるのには最適な場所ではないのです。

会報 「土岐・運・来」 第十四号
発行 自然・馬・人の会
発行日 二〇〇一年三月十一日（日）
ただいまの会員数 七十二家族

この場で、馬が驚くようなことが急に起こると、馬を押さえられずに、落馬をする可能性もあります。落馬は乗馬には付き物ですが、この場所は、落馬しても大丈夫という条件にはなっていない。また、驚いた馬は、他の引き馬をしている馬にも影響を与えます。障害のある人たちの落馬は命取りにさえなりかねません。

そこで、サドルバックのスタッフである吉川さんと相談し、安全面から、城址公園（現在乗馬会をやっている会場）では、単独で手綱を持って乗るのは取りやめにしました。ですから、現在では、手綱操作のプログラムに挑戦をする場合も、必ず引き綱をつけて行っています。このような場合は、引き綱を長く持ちます。安全のために引き綱を持っているのみで、馬は騎乗者の指示通りに動くので手綱操作のプログラムは、できるのです。では、何故乗馬に最適で



はない城址公園で乗馬を続けているかと言いますと、それには、主に三つの理由があります。

一つ目は、交通の便が良く、参加者が来やすい場所にあるからです。二つ目は、私たちの活動を一人でも多くの人に広めたいからです。城址公園は、小田原で一番人が集まる場所です。当日受付で乗馬を体験した人の中には、会員になってくれたり、ボランティアになってくれたりする人もいます。四月に花見に訪れた観光客のお陰で、定期乗馬会の赤字を補えることもあります。三つ目は、小田原

市に私たちの活動を理解してもらい、応援をして欲しいからです。(現在、小田原市が乗馬会の活動を後援してくれ、会場を無料で貸しだしてくれています)

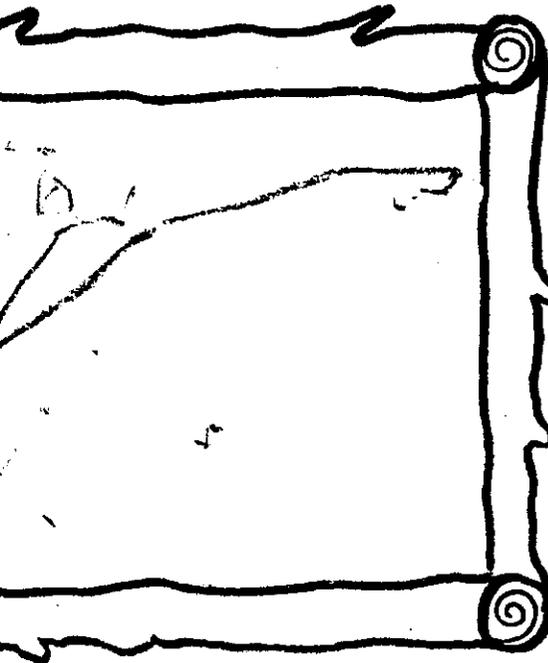
この数ヶ月、運営委員会では、来年度からの乗馬会のあり方を考えています。今まで通りの城址公園での乗馬会と合わせて、サドルバックでの乗馬会も間に入れたらどうかという案も出されました。(開催回数は現在の状況ではこれ以上増やせませんので、例えば城址公園七回、サドルバック三回などとなります) サドルバックでは、一人で手綱を持って

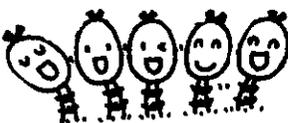
乗ったり、起伏のある場所や変化のある場所でも乗馬ができる利点があります。ただ、色々な問題も予想されます。(交通手段、騎乗料など)そこで、会員みなさんの思いをお聞きしたいと思つた訳です。是非、みなさんのお考えをお聞かせ下さい。(中村)

★運営委員会では、できるだけ近いうちに、総会を開催する計画を練っています。総会の詳細につきましては、別紙(「総会のお知らせ」)をご覧ください。



けむら めぐみ 



むらまつ としき  

乗馬△云から
一月十四日の乗馬会から



参加人数	会員 十五名
当日受付	二名
ボランティア	二十八名

毎月の乗馬会も、長年続けていければ、思わぬ出来事に見舞われることもある。今回は、本当にそんな感じの乗馬会でした。

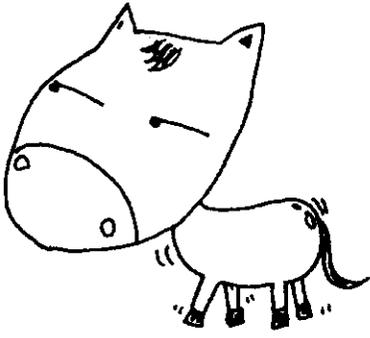
朝は冷え込みがきつかったものの、お天気は雲一つない青天！誰もが寒いけど穏やかな乗馬会の日と思っていたでしょう。いつも通りに準備をして、いつも通りの乗馬会が始まりました。「今日は寒いねえー」そんな言葉をかけあいながら、一回目のプログラムが終わる頃、寒さはますます厳しくなり、おまけに気がついていたら、あれだけの青空が全く見えなくなっていました。どうしたんだらう？と、思いながら、十一時のプログラムの開始直後……。空から何やら白いものが、チラホラ、ハラハラ……。

「雪！雪！雪ではありませんか！」「雪だよー、どおりで寒いわけだ」なんて呑気なことを言えたのはほんの束の間。あつという間にチラチラ……から、サササ……に変わり、しまいには前も見えないくらい、まるで吹雪の様な降り方。公園の木々も、地面も見える

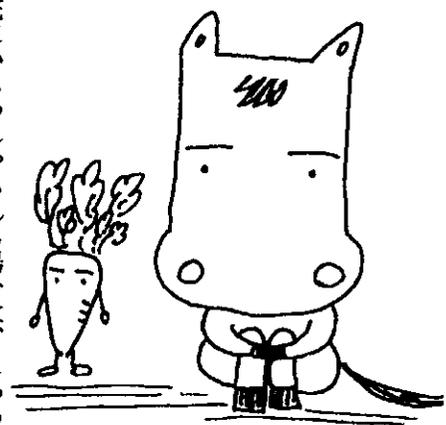
うちに、白く薄化粧をしてしまいました。こんな書き方をするとう風情があるかのようですが、とてもとでも！スタッフは寒さに震えながら乗馬会の中止を検討していました。最終的に、サドルバックの吉川さんの助言もあつて、乗馬会はその時点で打ち切りとなり、馬たちも足早にトラックに乗りこみ、「帰還となりました。」

さてそこで、午後の参加予定をされていた方との連絡です。大切なことなので、この機会に少しだけお話ししておきたいと思えます。

今回の様に、突発的に当日予定が変更することは希ですが、そうでなくても雨が降ったりやんだりしている時、「今日はやっているのかな？」って思うこともあると思います。そういう時は、当日、会場に直接問い合わせるのが確実です。乗馬会の日には、必ず当日のみの緊急連絡として、代表の桜井さんが専用の携帯電話を用意しています。こちらに問い合わせること、乗馬会の状況を即座に知ることができるようになっています。電話番号は、



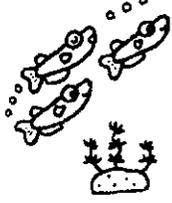
乗馬会のお知らせや、会員カードに記載されていますので、そちらをご覧ください。実際にこの日も、お問合せを頂きました。



「自宅にいらつしやられる場合は、こちらから連絡ができるのですが、外出されてしまうと、それができなくなります。是非、活用ください。（*注）

さて、この日は……という。午後は、再びピーカンのお天気！「もー！ー！ツ、そうとわかっていれば！」と思つた時、ミルキーもツクシも……みんないなかった。午後を楽しみにしていた子供たちには、とても残念な結果になってしまったけど、いつか笑って話せる思い出になってくれればなー！って思いながら、役員さんが用意してくださったあつあつのトン汁を、はふはふ言いながら頂きました。今度は、どんな思い出作れるかな？

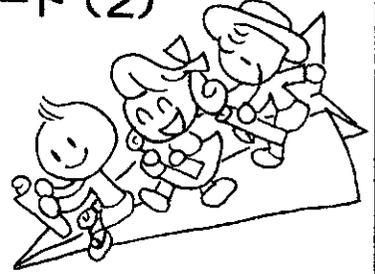
*注 問い合わせ用の携帯電話は、当日のみ使用可能です。他の日は、運営委員（〇四六五―三二―一三〇八 桜井 まで、お問合せ下さい。



(SN すぬ)

第9回「馬と健康社会」研究会レポート(2)

第9回「馬と健康社会」研究発表会(2000/8/20(日) 東大農学部にて——
「障害者乗馬—その基礎研究と実際」というテーマで7つの研究発表)が
ありました。前号から3回に渡って、その内容をレポートしております。



3. RDA 横浜の乗馬記録からみた障害者乗プログラムの解析 ——田中美穂・他(北大農)

RDA Japan が指導する RDA 横浜での障害者乗馬の実態を調査し、その記録からレッスンプログラムの解析を行って報告されました。

レッスン記録を解析すると、乗り手と馬の関係から次の3つのジャンルに分けられました。

①Passive phase (パッシブ・フェイズ)

乗り手が馬の動きを受動的に受け入れることをレッスンの目的としています。乗り手は筋肉に外からの刺激を受けるとともに、受動的にバランスを保持しようとしています。

②Active phase (アクティブ・フェイズ)

乗り手が馬上で馬に対して積極的に働きかけるレッスンで、通常の乗馬に一步近づいた段階です。乗り手は馬上で積極的に姿勢を維持しようとして、時には速歩する馬の上で反動をとります。

③Independent phase (インディペンデント・フェイズ)

乗り手が自立して馬を制御するレッスンです。馬に指示をしてコースを回らせたりします。

この3つのジャンル分けで障害者乗馬と乗馬療法を考えてみると、障害者乗馬は乗り手が③段階に至ることを期待して乗馬指導を行います。乗馬療法では基本的に①で乗馬させることになるだろうという報告でした。

4. 北海道和種馬とサラ系馬における騎乗者の背部、腰部および大腿部の動き ——近藤誠司・他(北大農)

サラブレッド系の軽種馬と和種馬に乗った時の乗り手の動きの違いを比較する実験を行いました。

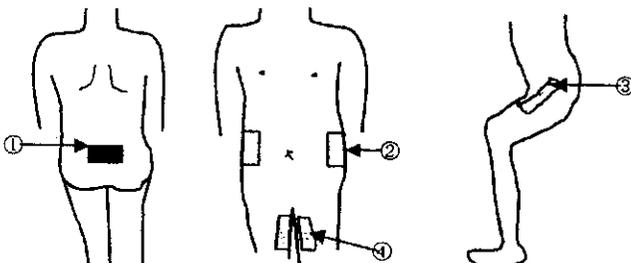
被験者の背最長筋下部、両側前上腸骨稜、両側大転子部、両側内転筋中央部【解説参照】に、それらの動きに反応して回数をカウントする装置を取り付けて、サラ系馬と和種馬に騎乗して常歩(なみあし)をした時の比較をしました。さらに、乗馬せずに被験者が歩行したときのデータも取って比較されました。

結果は、サラ系馬は背最長筋下部および両側大転子部が和種馬より多く、またこの値は歩行時より多いか同程度でした。一方、和種馬は両側前上腸骨稜および両側内転筋の動きがサラ系馬より高い結果となりました。

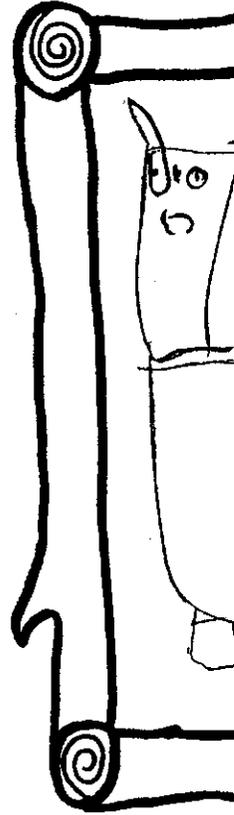
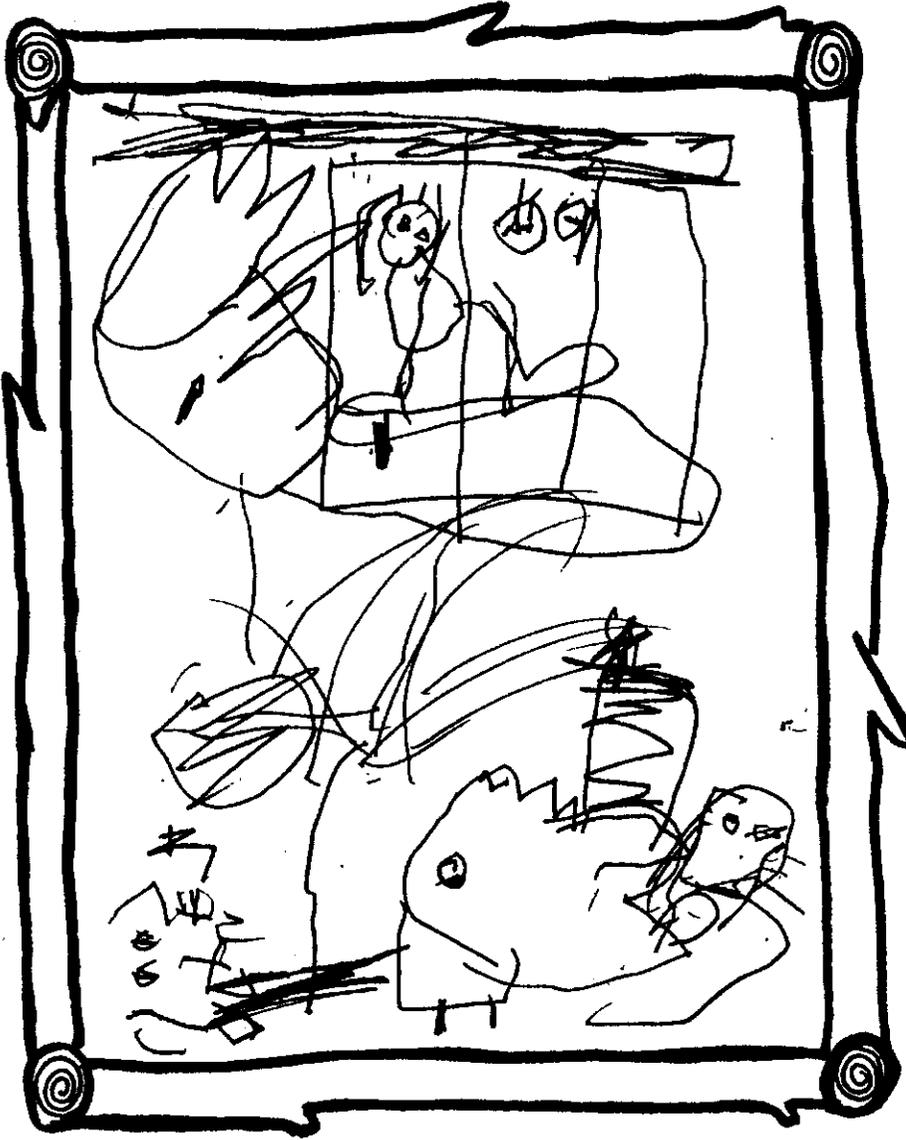
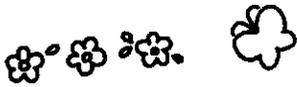
これらの結果より、和種馬に乗ったときは左右の動きに対応し、サラ系馬では上下動が大きな影響を与えているように思われます。どちらが障害者乗馬に向いているかは、障害の程度や種類から今後判断していくべきだろうという報告でした。!

【解説】

- ① 背最長筋下部(背骨の運動、姿勢の保持のために働く筋肉の下部)
- ② 両側前上腸骨稜(股関節を曲げるときに働く筋肉がある部位)
- ③ 両側大転子部(下肢を外方に上げる筋肉がある部位)
- ④ 両側内転筋中央部(外方に上げた下肢を下げる筋肉がある部位)



現在、「自然・馬・人の会」では、関連他団体との積極的な交流を目指しています。
このレポートは「馬と健康社会」の研究発表会に参加された、斎藤佳世子さんより寄せて頂きました。



わたなべ ももこ

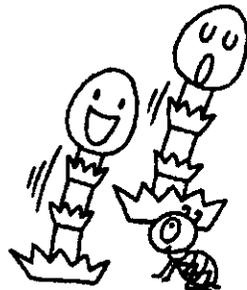
いつも仲良くしてくれる馬達への、思いをこめて、馬の絵を好きなように描いていただきました。

「馬ギャラリー」のコーナーは、乗馬会の際に、テントの中に用意してあります。

あいている時間には、好きな画材を使って、思いきりお気に入りの馬の絵を描いてみよう。

もちろん、ご自宅で描いていただいても結構です。乗馬会に持って来て下さい。

紙面で紹介させていただきます。



自然・馬・人の会って？
——こんな会です——

馬がいる。子供がいて、おばあさん、おじいさんがいる。車椅子で来た人が背筋を伸ばして馬に乗っている。仲間とやっ来てサイドウォーカーをやっている若者が声をかけている。馬が駆け出すと歓声があがる。笑顔が広がる。補装具を足につけた子が、ここで出会った友だちとボール遊びをしている。取りそこなつて転がったボールを一緒に来たお父さんお母さんがあわてて取りに行く。豚汁のみその香りが、ぶーんとただよう。昼食を囲むテーブルの向こうで、アサラト、カリンバなどの楽器を鳴らして遊んでいる人たちがいる。本を読んでくれる人のまわりで子供が一心に耳を傾ける。

これが小田原の乗馬会の風景です。乗馬会には誰もが参加できます。誰もが同じ場所でお互いに関わりを持ったり持たなかったりしながら、それでも目のすみにそれぞれを感じながら、それぞれの豊かな時を過ごしている。そして参加する人はみんなそれぞれに楽しんでます。そのこと——みんな一緒ということ、が、今の時代にはとても大切な事だと思っております。そして、みんな一緒ということからどんな発想や出来事が生まれてくるのか、とても楽しみです。本当にこれから何か動き出していきそうな気がします。あなたもそれをわたしたちと一緒に体験してみませんか。

活動内容

☆乗馬会

- ・毎月一回
- ・小田原城址公園内歴史見聞館東側にて
- ・事前受付：個人プログラムに合わせ仲間と共に継続して乗馬を楽しみます。
- ・当日受付：乗馬が初めての方でも体験できるコーナー。
- ・2周引き馬料……五〇〇円
- ・騎乗料……一、〇〇〇円

☆小田原市への働きかけ

わんぱくらんど等の運営について、提案を行っていきます。

☆運営委員会

この会を運営、進行していく為に月一回程度、話し合いを持ちます。

メンバー・資金構成

- ☆会員：家族単位で年会費三、六〇〇円(四月初期替え) 会費は通信費・事務費・印刷費等に使われます。
- 会報(年四回)・乗馬会日程(毎回)をお届けします。
- 二家族体験乗馬券を差し上げます。(乗馬会参加時)

☆運営委員会：会員の中より自主参加。

役割分担をして会の運営にあたります。

☆ボランティア会員：年会費なし

- 会報・乗馬会日程をお届けします。都合がよい日に申し込んで下さい。
- 仕事内容：馬を引く、馬に乗る人のサポート。受付・食事作り・テント設置など。

☆協賛会員：この会を経済的に応援して頂いています。

- 協賛金：一口一、〇〇〇円(会の運営費、馬具の購入などに使わせて頂きます)

小田原で、もっと身近にもっと楽しく自然と馬がふれあい集えるように、広く仲間を募集しています。一緒に楽しませんか？

☆お問い合わせ

〒二五〇、〇〇四五
小田原市城山一、三、二二一
自然・馬・人の会代表 桜井 広利
TEL 〇四六五、三三二、一三三〇八
FAX 〇四六五、三三二、一三三三二
☆年会費・協賛金などの振込先
便振替口座〇〇二七〇、四、七九九四四
「自然・馬・人の会」 桜井広利

☆次回のお知らせ

- 研修会 四月七日(土)
 - 乗馬会 四月八日(日)です。
- 参加お申込がまだの方は、お早めに！